

船舶事故等調査報告書

平成26年7月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014長第25号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年3月17日 11時00分ごろ
発生場所	長崎県佐世保港 <small>いぶ</small> 庵ノ浦 長崎県佐世保市所在の佐世保港弁天島灯台から真方位202° 2,800m付近 (概位 北緯33°07.3′ 東経129°42.3′)
事故等調査の経過	平成26年4月15日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	作業船 第貳拾参福丸、19トン
船舶番号、船舶所有者等	292-41200長崎、福丸建設株式会社
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	船首部、船底部及び船尾部付近に凹損及び擦過傷
事故等の経過	本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、船首約1.8m、船尾約2.5mの喫水により、庵ノ浦南側の海岸付近を約4ノットの対地速力で南東進中、平成26年3月17日11時00分ごろ船底が浅所に乗り揚げた。 船長は、右舷船底に衝撃を感じ、クラッチを切つてすぐに機関室内を点検したところ、同室内右舷前方に凹みを確認したものの、浸水等の異常がなかったため、係船場所である佐世保市佐世保川の作業台船まで自力航行した。 本船は、19日に佐賀県伊万里市の造船所に上架された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 5 海象：潮汐 下げ潮の初期
その他の事項	海上保安庁刊行の海図W1233によれば、本事故発生場所付近は、海岸から約50mの幅で2m等深線が延びている。 船長は、庵ノ浦を何回も航行した経験があったが、本事故発生場所付近の水深を把握していなかった。 本船は、レーダー及びGPSプロッターを装備していたが、船長は、本事故当時、レーダー及びGPSプロッターを作動させていなかった。 船長は、海岸に係留用の方塊等が残っていないかを目視で点検しながら操船していた。

<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、佐世保港庵ノ浦南側の海岸付近を南東進中、船長が本事故発生場所付近の水深を把握せずに航行したことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、海岸に係留用の方塊等が残っていないかを目視によって点検していたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、佐世保港庵ノ浦南側の海岸付近を南東進中、船長が本事故発生場所付近の水深を把握せずに航行したため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定航路の水深は、海図で事前に把握すること。